

## 第118回日展

### 第3科 (彫刻) 審査所感

審査主任 能 島 征 二

日展は、明治40年（1907）の第1回文展から118年の歴史を重ねて今に至っております。こうした長い歴史の中でも、昨今の社会状況は益々複雑かつ急速に変化しており、美術（芸術）の分野もまた例外ではなく、今まで見たことがなかったような表現が次々と生み出されています。日展第3科の彫刻は草創期より具象表現を真摯に求め、作家各位が個性や多様性を重視しながら技量を磨き、高い品性、感性、造形性を希求してまいりました。そのことに思いを致しながら、これからもそのようにあり続けたいと願っております。

ここ数年、自然災害や酷暑が続き、さらに困難な世情にあっても、多くの作家が積極的に制作に挑み、日展に作品を出品しております。こうした作家に敬意の念を持ちながら、今回の審査においても、厳しい造形性、作家の内面に宿る造形思考を重視した作品62点を入選としました。特選は各審査員が入念に審査し、厳格な視点でより質の高い6点を審査員の総意として選出しました。

彫刻の会場には、日展が求める具象の形態を継承し各作家の内的な造形精神やその技術を具象表現に込めた様々な作品が陳列されております。是非、彫刻芸術の魅力を感じていただきたく思います。

搬入数	75点
入選数	62点
(内新入選)	9点